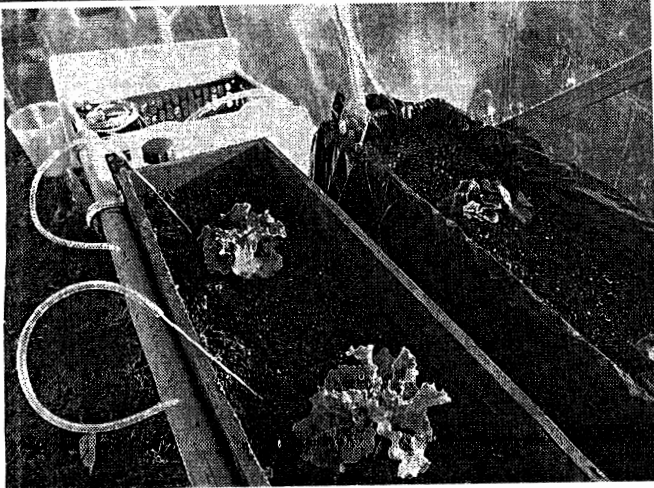


つくばアグリサイエンス

地中に均等かん水

システム 開発 栽培の完全自動化も

農業向けサービス販売のつくばアグリサイエンス（つくば市館野、山岡辰男社長）は、農地の土中に均等に水やり（かん水）できる簡易システムを開発した。ポンプと管路を通じて作物の根本に水や液体肥料を施し、作物の成長を促進。一定時間ごとにかん水する設定にすれば、種まき後から収穫までの完全自動化も可能という。同社はハウス栽培農家や農業法人を中心に販売する計画。



開発したのは「根圏で作物の生育を高める地中高圧かん水システム」。貯水槽からポンプを使って、農地内の地上部分に直径約5センチ、長さ約6メートルの管を複数張り巡らせる。ポンプから管に水や液体肥料を送り込み、管からさらにチューブと注水管を作物の根本に差し込み、土中注入する。水分の蒸発を防ぐ管路からチューブを通じて土中に水や液体肥料を供給するシステム

同社は、栽培する野菜の種類ごとに必要な水分量のデータをまとめ、種まきから収穫までに適切な水分量を供給する自動システムを構築する。今年中に都内の大学と連携し、データ取得を進める。

農作物のほか、屋上緑化や街路樹、乾燥地帯の緑地化にも応用できるといふ。山岡社長は「故障も少なく、農家の負担軽減になる。緑地化では管をステンレス製にすれば数十年レベルで維持管理が不要となる」と利点を強調する。

同社は2007年設立。農業土木の管路計測装置や有機資材販売、農業生産管理（J-GAP）の取得支援などを手掛ける。

（編引正雄）